

エッセイ (Essay)

2019年 香川県の地下生菌 顛末記

Our small accidents in collecting truffles in Kagawa Prefecture, in 2019

嶋田友久

Tomohisa Shimada

香川県丸亀市綾歌町富熊

Ayauta-cho Tomikuma, Marugame-shi, Kagawa, Japan

E-mail: cordycep@nifty.com

Article Info: Submitted: 14 December 2019 Published: 31 March 2020

1. ウツロイモタケの発見

2019年11月3日に香川植物の会の観察会が実施された、香川県まんのう町の阿讃山脈への林道に、同年11月5日に再訪しました。観察会では、参加者がそれぞれの観察ペースで進むため、縦長の列になります。それが、幾つかのグループになり、そのグループの最後尾が僕らのグループで、その日は第5グループという事でした。スギ・ヒノキの植林に挟まれた雑木林の残る斜面を、未舗装の林道が登っています。山側には水の通り道になっている場所もあり、僕自身はいつもの通り植物はさて置いて冬虫夏草がないものかと雰囲気を探りながらの歩みになっていました。運よく植物の陰になっている場所に朽ち木があり、ヨレヨレですがハナサナギタケが見つかりました。ハナサナギタケが有ったよと告げると、グループの6人が集まってきました。覗き込みます。その時、僕の隣に居たSさんが、「あれっ」と指さしました。指の先を見ると、明るい褐色で扁平、しかも穴の空いている小さなキノコが土の上に乗っていました(図1)。

思わずウツロイタケと叫んだのをSさんがウツロイモタケ *Hydnocystis japonica* (Kobayasi) Trappe と言い直してくれました。すぐに採取されて手のひらに乗ったウツロイモタケは、グループ全員の熱い視線を浴びました。十分に視線を浴びせた人達は、順次散っていきます。そして「有った」「ここにも、有った」と次々に発見の声があがりました。僅かな時間の間に、僕とSさんの手のひらに合わせて10個くらいのウツロイモタケが集まってきました。後で集計すると採取された数は13個。恐るべし最後尾グループなのです、が、残念なことに、僕も含めて誰も生態写真を撮っていませんでした。

今日再びこの場所を訪れたのは、あの時に忘れてしまった生態写真を撮るためです。当然ですが、発見した場所では予想した通り綺麗な状態のものは無く、探索範囲を山道の谷側斜面に広げてみました。足元周辺を見まわしながら50m近く斜面を下って、沢の普段は水が流れていない溪流滞と呼ばれる場所に降りました。沢の水面から50cmくらいの高さで横幅5~6m、縦幅30m程度の溪流で、細い灌木と岩が散在し、

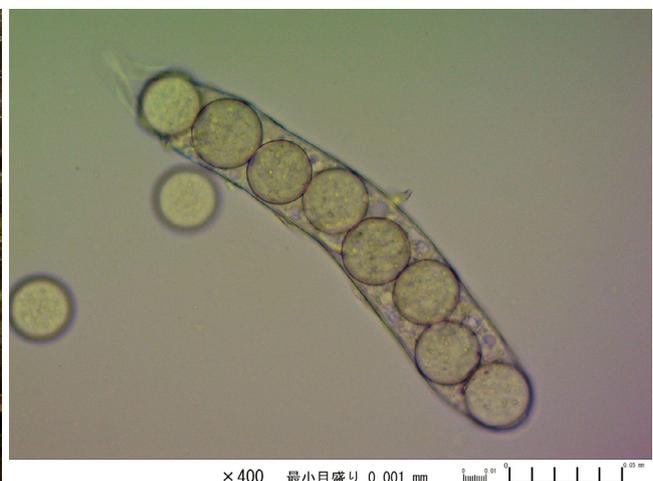


図1. 採集したウツロイモタケ (*Hydnocystis japonica* (Kobayasi) Trappe). 左: 子実体. 右: 子嚢と子嚢胞子.

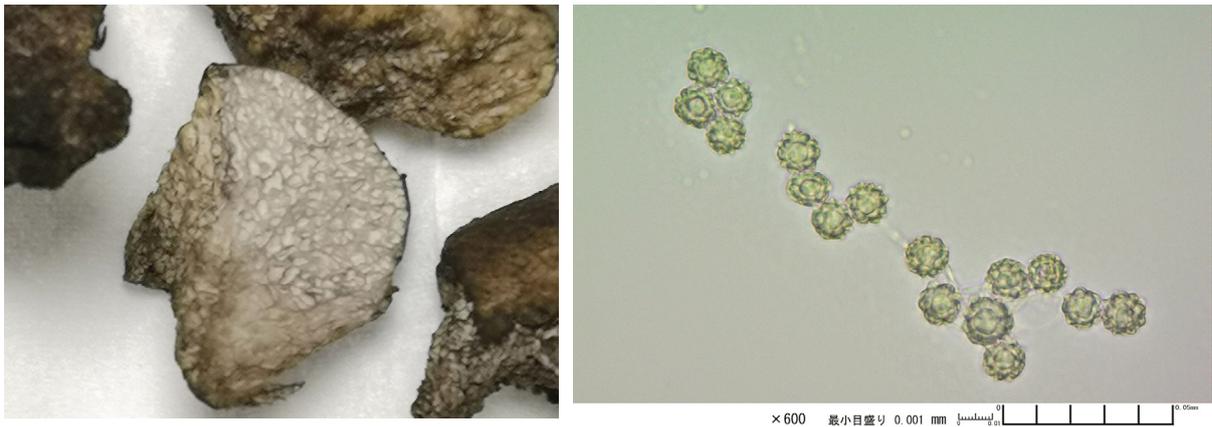


図 2. バラバラになったジャガイモタケ (*Heliogaster columellifer* (Kobayasi) Orihara & K. Iwase). 左：子実体. 右：担子孢子.

地表に薄くコケ類や落ち葉が見られ、細かい土砂がそのまま見えている場所もあります。木々の枝で空は見えませんが明るい空間です。少し溪流の中へ進むと、なんと再びウツロイモタケを発見する事が出来ました。発生していたウツロイモタケは、幸運にも大きさ、形とも様々で、かなりの数が点在していることが判りました。あの日忘れてしまった生態写真を、ここで撮る事が出来て無事に目的を達成しました。採取した数個を栃木県立博物館の山本航平さんに送り同定して戴きました。その後、凍結乾燥標本となり神奈川県立 生命の星・地球博物館に収蔵されました（標本番号：KPM-NC 27948）。

2. バラバラになったジャガイモタケ

2019年11月21日、「冬虫夏草を勉強したい、教えて欲しい」という瀬戸内海国立公園五色台ビジターセンター インタープリターのO君と琴電岡田駅で待ち合わせました。彼が、初めての虫草探索ならと応援に駆けつけてくれた日本冬虫夏草の会のHさんから仲間達3人と合流して、目的地の香川県まんのう町、阿讃山脈の谷へ向かいました。

O君は冬虫夏草について教えてくれる人を探していたと言います。たまたま五色台へ観察会の下見に訪れていた香川薬草会の幹事さんから僕のことを聞き、その幹事さんに名刺を託して、それが僕のところへ届いたという展開でした。もう、冬虫夏草の季節は終わりだよと伝えると、発生環境を見せほしいと言います。発生場所は仲間が大切にしている場所だけと言うと、心得ていますと言う。ならばと、この日の段取りとなりました。

探索を始めましたが、さすがに季節外れのフィールドは易しくなく、約2時間を要してギャドリナガミノツブタケとその他1種を確

認できた程度でした。次の場所へ移動を決めて、来た道を下っていったところ、県道へ出る少し手前、道脇の落ち葉の重なる中に、ホコリタケの仲間が点々と並んでいたの、それを孢子が出るかプシュプシュ遊びながら進んでいたら、O君が同じような大きさのものを拾い上げて割ったものを僕に見せてくれました。中が白かったので幼菌かと思い、戻しておいたらと言って進みかけたら、後ろで、それを手にしたHさん達が、「変色してる」と声を上げました。振り返り急いで戻って見ると確かに白いクレバの部分黒く変色しています。地下生菌だ！と言った時は、そう、すでにバラバラになっていました（図2）。十数年前に神戸のMさんから地下生菌の採取の手ほどきを受けて以来、リュックに入っていた剃刀の刃は、今ではナイフに代わっていますが、それを出すことも使うことも無く、生態写真を撮ることもなく、複数のかけらになった地下生菌が僕の手元に有りました。

持ち帰って改めてクレバの様子、変色、孢子を確認して、地下生菌識別図鑑の検索表で検索するとジャガイモタケの仲間だろうと判りました。自分としては、昨年12月に福岡のIさんに初めて見せて貰って以来2度目なのですが、相変わらず全くの絵合わせ状態なので、またもや山本航平さんに画像を送付してジャガイモタケ *Heliogaster columellifer* (Kobayasi) Orihara & K. Iwase と同定して戴きました。この結果をみんなに伝えたところ、仲間達は発見したO君へ称賛しましたが、当のO君は、このジャガイモタケを忘れることは無いと思いますと返事が返ってきました。

謝辞

この度、ウツロイモタケ、ジャガイモタケの同定を含めて色々ご指導して戴きました、栃木県立博物館の山本航平さんに、この場をお借りしてお礼申し上げます。